街かど

街かどは、みなさんのページです。作品（絵画、写真、イラスト、短歌、俳句、川柳、詩など）やご意見（テーマ、内容は自由）を募集しています。原則として必ず掲載します。
また「われら仲間」や「私とスポーツ」にもぜひご登場ください。
匿名希望者は匿名としますが、編集部には氏名をお知らせください。
投稿、連絡先　黒埼町大野二八四三の一黒埼町役場企画調整課☎七一三一〇一

随筆　春祭りの日に思ったこと

酒井　庄平（中学通り　七十九歳）

暖たかな陽射しである。部落を通って来たら白木がふくよかな花を開いていた。ペダルを踏んで少し行くと、椿の紅白の花が葉の間から、われここに在りと顔を出していた。

もう少し行くと、連曉（れんぎょう）の黄が垣根に見えた。庭には白く照合する雪柳もあった。車の少ない裏道に行くと桜が満開である。

表通りに出ると、造花の桜が風にひらひらしていた。雁木（がんぎ）通りに紅白の幕が張られて「ああ、今日は春祭りか」と思った。この年齢になるまで何十回も春祭りを見てきた。いつも明るく楽しかった。

自分が若かったころの祭りには必ず「門附（かどづけ）」が来ていた。門附は色々な人がいた。獅子舞、猿廻し、瞽女（ごぜ）またこじきもいた。

こじきは、哀れな声で「一文恵んで下さい」と頭を下げていた。同じような光景は終戦後にも見た。障害軍人である。人通りの多い道や祭日に彼らは座って頭を下げていた。浄財と言って金を求めるのである。

子供たちは、門附や障害軍人を「くわん人」と呼んでいた。このくわん人またはかん人の名前の由来は何だろうかと考えたことがあった。

二説あって、源義経が源頼朝に追われ奥羽の平泉に落ちのびた時、僧や山ぶしに身をやつして関所や宿泊を請う際に、勧進帳の経を詠んだからという説が一つ。もう一つは、読んで字のごとく、食わん人という意味からである。

しかし、こういう人たちはまったく見られなくなった。今の日本は戦後の苦境などなかったかのように繁栄している。特に私など年寄りには福祉の恩恵を大いに受けている。誠にありがたいと思う。

その反面、最近の社会の動きを見ると、果していつまでこんな繁栄が続くのかとも思う。日本の歴史を通して、今のような平和な時代はなかった。こじきや障害軍人の姿を町で見るような時代は遠い過去だけのものにしたいものである。

俳句

海に向く漁師の墓や桑芽吹く　岩見　正子

落椿墓みな低し海女の村

あたたかや浜の坂道かけ下りぬ

招きたるる二人とも金魚買ふ　海津みよき

退職で菊の芽さしを教りぬ

庭せまし散りたる花も咲く花も　佐藤　キン

陽に映えふわりふわりと日和虫

初孫をだいて見上げるこいのぼり

詩

亡き友を偲びて

佐藤　キン

夫と子の座す天国へ
無常の風にさそわれて
死出の旅路へわが友よ
花に包まれ薄化粧
御仏となられ給えて
気高さに涙にかすむ友の顔
別れ惜しさに咽び泣く
人の命のはかなさに
今は天国お星さま
三ツ星いづこ親子星
今宵はいずこと
夜空見上げる

五月十日

「声」は町のみなさんの意見発表の場です。内容、テーマは自由。文章はにがて……というかたは連絡してください。取材に行きます。

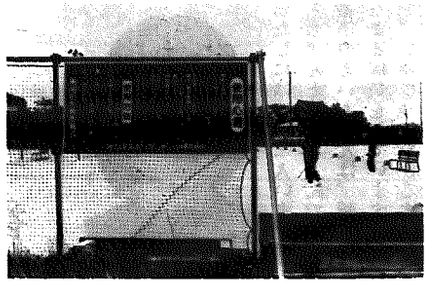
「われら仲間」はグループ紹介です。

「情報」―町の人に知らせたい情報がありましたらこのコーナーへ。

広報くろさきではみなさんからの連絡をお待ちしています。

善意の窓

テニスコートに善意の立て看板



5月8日(土)、町営テニス場（体育館裏と木場）に立て看板が立ちました。この看板は小林電機商会(山田)と小熊スポーツ店(大野)が寄付されたものでテニスコートの使用方法や使用心得が書かれてあります。

菊地八重子さん（興野）が、ポット七個を五月十日(月)、黒埼荘へ寄贈されました。

わたしとスポーツ ③

社会体育と学校教育

谷川　一寛（寺地）

現在、私は黒埼町ジュニア体操クラブを指導しています。私の他にコーチは約十人。生徒も十人ちょっとです。また毎週土曜日にはジュニア体操教室があり、ここでは小中学生約五十人が練習しています。

さて、五月九日(日)、新潟市の鳥屋野体育館で新潟県春季ジュニア体操大会がありました。そして、小学生女子が団体で五位に入賞し、個人でも好成績をあげました。

入賞できませんでしたが中学生は健闘したと思います。昨年は賞状を一枚も手にできなかっただけに子供たちはたいへん上達したと思います。

ジュニア体操クラブは今年で設立四年め。週三回（教室は一回）の練習をしています。私たちコーチも、一日の仕事の後にできるだけ参加するようにしています。みんなが協力し合ってやっとここまで来たというのが実感です。

ところで、社会体育は重大な問題を抱えています。それは、学校体育との関係です。

黒埼町の社会体育と学校体育の関係は好ましい状態ではありません。指導方法を一つとってみても、違いますし、同じスポーツでも、互いに連絡すら持たないのが現状です。

特に問題なのは指導者です。小・中学生にとって決定的に重要なことは、良い指導者、先生と会えるかどうかなのです。

自慢するわけではありませんが、ジュニアクラブには熱意と根気のある指導者がそろっています。元国体選手も数人いて強力なスタッフが組めます。そして、私たちは子供の成長の妨げになることだけは避けています。昔の指導法や慣例、規則などの誤りやむだを体験的に知っています。スポーツの世界においては、五年十年前の指導方法は役に立ちません。五年前はこの方法で成功した。だから今回も同じではなくだから今回は違う方法を ― なのです。

不良化防止やコミュニケーションのためなら五年前の指導でもよいでしょう。が、もう少しスポーツと真剣に取り組もうとするならば指導者は勉強しなければなりません。私がもっとも危惧していることは、指導一つで子供たちは石炭にもダイヤにもなるということです。そして子供たちが「もっとうまくなりたい」と思った時に、だれが教えられるのか、ということです。

黒埼町には多くのスポーツ団体があり、その道のスペシャリストも何人かいます。そういう人に指導法を習ったり、町内スポーツ団体と合同練習をすることを考えたらどうでしょうか。

私が中学生のころは、社会人や高校の先輩が来たり、時にはかなり夜遅くまで練習したりしました。そんな人と接して人間的にも成長したと思うのです。

ただし、学校に教育からスポーツ、そして不良化防止などまでをいっさい任せてしまうことは考えもものです。仮に学校が不良化防止に責任をもったとしても（ここが肝心ですが）スポーツには責任はないということです。

本質的にスポーツとは不良化防止やコミュニケーションとは無縁のものです。そして学校が色々な事情（人材や施設不足など）でスポーツ指導がじゅうぶんにできないのなら、社会体育がその代わりを勤めねばならないでしょう。

総合体育館を利用して、多くのスポーツ団体が汗を流しています。汗が流れるごとに―まとまりのある町になると思います。そのためにも、私も黒埼ジュニア体操クラブも、よりいっそうがんばりたいと思っています。